

令和5年度 学校評価報告書

学校番号(34) 長崎市立(西城山小)学校

1 教育目標

夢や希望の実現へ向け、生涯を通じて学び、国際社会に貢献できる、徳・知・体 調和のとれた個性豊かな児童の育成

2 学校経営方針

みんなでつくる にししろやま

ここにこえがお・しんけんたいど・しろうとするしせい・やさしいところ・まなびあうなかま

3 重点目標

重点1 個に応じた教育実践 (G1-3・4)

重点2 「気付くまで」「できるまで」「わかるまで」の授業 (G1-1)

重点3 凡事徹底、師弟同行による生活指導 (G1-2)

重点4 めざすこども像を共有した学校、家庭、地域の連携・協働 (G1-3)

重点5 保健・安全指導の徹底 (G1-4)

| 領域 | 項目 | 質問内容 | アンケート結果 | | | 分析及び改善策 |
|------------------------|-----------|---------------------------|-----------|-----|------|---------|
| | | | (肯定的割合・%) | | | |
| | | | 児童生徒 | 保護者 | 教職員 | |
| 学校経営 | 教育目標 | 教育目標を達成している | 91% | 95% | 100% | 概ね良好 |
| | 学校の雰囲気 | 明るく楽しい雰囲気である | 84% | 94% | 96% | |
| | 組織運営 | 校務分掌は責任体制が明確で、適切に機能している | | | 100% | |
| | 業務の改善 | 校務の縮減・効率化等、業務の改善を推進している | | | 96% | |
| 心の教育 | 生活・生徒指導 | ルールやマナーを身に付けている | 88% | 91% | 100% | 概ね良好 |
| | | 挨拶をよくしている | 94% | 82% | 100% | |
| | | 「あ・は・は運動」を知っている(小学校のみ) | 72% | 68% | 57% | |
| | | 教職員は悩みや相談に親身に対応している | 89% | 86% | 100% | |
| | いじめ防止対策 | 学校はいじめ防止のための対策をとっている | 92% | 86% | 100% | |
| | 人権教育 | 生命や人権を尊重しようとする心が育っている | 96% | 88% | 100% | |
| | 平和教育 | 平和の大切さを感じ、その思いを発信しようとしている | 93% | 90% | 100% | |
| | 特別支援教育 | 学校は教育的ニーズに応じた教育を行っている | 92% | 85% | 96% | |
| 確かな学力 | 特色ある学校づくり | 伝統や校風、地域の実態に即した教育を行っている | 91% | 89% | 100% | 概ね良好 |
| | 学習指導・教育課程 | わかりやすい授業を行っている | 94% | 93% | 100% | |
| | | 家庭学習の習慣が身に付いている | 87% | 79% | 95% | |
| | キャリア教育 | 将来の自立に向けて適切に指導している | 88% | 80% | 95% | |
| 長崎のまちや自分の住んでいる地域が好きである | | 93% | | | | |

| | | | | | | |
|---------|------------|------------------------------|-----|-----|------|------|
| 健やかな体 | 保健・衛生 | 衛生管理に努め、健康に関する教育を行っている | 95% | 91% | 95% | 概ね良好 |
| | 体力向上 | 早寝・早起き・朝ごはん(基本的生活習慣)が身に付いている | 83% | 84% | 100% | |
| | | 体力向上に努めている | 87% | 84% | 100% | |
| | 食育 | 食に関する教育活動を行っている | 86% | 90% | 95% | |
| 信頼される学校 | 安全管理 | 児童生徒の安全に気を配っている | 94% | 91% | 100% | 概ね良好 |
| | 情報提供 | 学校の状況は通信やHP等で知ることができる | | 93% | 100% | |
| | PTA・地域との連携 | 学校はPTAや地域との連携がとれている | | 96% | 100% | |
| | 職員資質向上 | 研修が充実し、資質が向上している | | | 100% | |
| 教育環境 | 環境整備 | 教育環境が充実し、整備されている | 91% | 77% | 100% | 概ね良好 |
| | 職場環境 | 学校は働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる | | | 100% | |

5 自己評価のまとめ(成果・課題・対策等)

○ほとんどの項目において、児童、保護者、教職員ともに85%以上の肯定的評価でおおむね良好な結果となった。学校教育目標を教師、子ども、地域が共有し、努力を続けた結果であると考えられる。

○「あ・は・は運動」の認識が低くなっている。今年度、「あ・は・は運動」と校内の生活指導を連携させる取り組みができなかったことが課題となった。次年度は、生活指導の計画立案の段階で「あ・は・は運動」を取り入れ、周知・改善させていく。

○家庭学習の習慣化について、保護者の割合がやや低かった。教職員が高い割合であることを考えると、意識のギャップがあると考えられる。個別最適な学習の充実の観点から、家庭学習の取組について見直していく。

6 学校関係者評価

○児童・保護者・教職員の意識のギャップについて話題になった。

○家庭学習については、クロームブックの活用により、保護者の関わり方(点検、添削など)が変わることや、AIドリル活用による学習時間の変化などが考えられると説明した。保護者へ、家庭学習の在り方やAIドリルの効果について説明し理解してもらう必要があると意見をいただいた。

○体力向上については、幼少期からの運動経験の不足や、ちょっとした運動でのけがの多さなどの懸念を伝えた上で、フィットネスチャレンジの全校的な取組の周知、体育科の学習の充実などについてご意見をいただいた。

7 対策等の見直し(学校関係者評価を受けて)

○クロームブックを活用したAIドリル等の家庭学習の効果や見守り方などを保護者に周知するとともに、教職員も研修を行い紙の宿題と併用しながら学力向上へつなげていく。

○体力向上について、フィットネスチャレンジの全校的な取組を進めその成果を保護者へ周知することや、体育科学の充実(体づくり運動、器械運動など)によるけがの防止などに取り組む。